

派遣隊員レポート

協力の中の青春 Vol.22

正田 暁子 (まさだ あきこ)
平成 19 年度 4 次隊 日本語教師 フィリピン

プロフィール :

滋賀県高島市出身。
海外での生活の経験は、今回が2回目。(今回は、1年間ベトナムで日本語教師をしていました。)

フィリピンの気候・文化の紹介

熱帯性気候で、年間を通じて暖かい。季節は雨季と乾季があるが、地域による差が激しい。

言語は、公用語がフィリピン語だが、ほぼあらゆる場面で、英語も通じる。

国民の約93%がキリスト教徒で、キリスト教に纏わる行事も多い。特に、クリスマスは最大の行事で、約1週間前から、クリスマス開始日とされていて、毎夜明け、教会にミサに訪れる人々が集う。また、クリスマスパーティーの出し物の準備にも、気合いが入る。

活動や生活について :

フィリピンの首都マニラのカトリック系の総合私立大学アダムソン大学で、日本語教師として、活動しています。主な活動内容は、'日本語習熟プログラム'(協力隊員によって、他の日本語教育機関で始められた技術者向けの新しい日本語コース)の授業担当、フィリピン人日本語教師への指導などです。生徒は、主にコンピューター系の学部で1~3年生ですが、フィリピンは日本と教育制度が違い中学校がないため、大学生といっても年齢は日本の高校生に該当します。そのせいもあって、まだ幼く、性格も素直で朗らかな生徒が多いです。授業では楽しく学んでもらえるように、日本語を使ったゲームや歌を取り入れるようにしています。(授業風景 写真有り)

また、直接授業を担当している生徒以外にも、J-pop やアニメなどの日本のサブカルチャーをはじめ、日本の電化製品などに興味を持っている生徒はたくさんいます。特にアニメはよく知られていて、NARUTO やスラムダンクなどが人気で、アニメのキャラクターのコスプレ大会も頻繁に行われています。

昨今、日本・フィリピン経済連携協定締結に向けた交渉の進捗が注目され、ますます両国の結びつきが強まり、日本語の需要も高まる中、その日本語教育の現場で活動できることを大変うれしく思っています。ただ、日本に興味がある人は多いものの、日本語学習で成果をあげること、また、教師のレベルなど日本語教育全体のレベルの底



授業風景

コンピュータールームで日本語の授業をしています。生徒はとても乗りがよく、素直でかわいいです。



阿波踊り

学生のサークル日本文化交流会のメンバーと、学内の行事で阿波踊りを披露したときの集合写真です。私の前任者の代からはじめた踊りですが、学内のさまざまな行事の前座などで披露しています。みんながお互いに教えあって、踊りを踊れる学生も増えてきました。ちなみに、うちわと菅笠は手作りです。

上げには、まだまだ長い道のりです。それにはフィリピン人教師の給料の低さの問題をはじめ、簡単には解決できないさまざまな要因がありますが、今はフィリピン人の先生と協力してプログラムを運営していくことを、フィリピンらしく焦らずゆっくりしていこうと思っています。また、日本語を教える以外にも、もっといろいろな人に日本を知ってもらえるように日比文化交流活動に力をいれていきたいと思っています。

現在は学生のサークル 日本文化交流会 を通して折り紙や日本の踊り(阿波踊りなど)を教えたりもしています。学内の行事で踊りを披露する機会も多く、学部数が30以上あるマンモス校ですが、少しずつ顔を覚えられてきて、「こんにちは！」と日本語で声をかけられる機会が増えてきました。とはいえ、まだまだ活動目標の達成にはほど遠いです。赴任して、もうすぐ1年になります。残りの任期も与えられた機会を活かし、周りの人たちと協力しながら頑張っていきたいです。



ホームステイ

赴任後間もなく、現地語学訓練の1つとしてフィリピン人の家庭にホームステイさせていただきました。

私は同僚の家にホームステイしましたが、大家族で賑やかで仲がよいのが印象的でした。

フィリピンでは1日3度の食事以外に、「ミリエンダ」という間食の習慣があり、1日5回も食べると言われています。「ミリエンダ」では、スナックだけでなく、スパゲティやフィリピン風の焼きそばなど、日本では主食になりそうなものを、おしゃべりしながら食べます。たった3泊4日でしたが、フィリピン人の日常生活を垣間見るいい機会になりました。